

# 令和3年度あおもりアーツカウンシル事業報告

## ◆ 文化芸術創造活動助成事業 報告

①「アウトプット展 2021」／アウトプット展実行委員会

②「世界最大級版画プレス機活用の油性1版多色刷り木版画制作」／AIRS

③「洞爺丸よ、安らかに！～オンラインで追悼する青函連絡船洞爺丸」

／一般社団法人進め青函連絡船

④「地元アーティストによる無観客ライブ配信」／青森 GOTTAMIX

※各団体5分間の報告のあと、委員講評および質疑応答があります。

## ◆ “創造の場づくり”支援事業 報告

「あおもりアート&カルチャーNEWS」について

## ◆ A-Paradise 事業 報告

・「A-Paradise2021～芽生えのころ、なれる自分へ～」

・「春待つ A-Paradise～絵本がつなぐ しんまちキャンプステージ～」

※令和4年3月19日（土）に開催予定だった事業報告会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、中止いたしました。

こちらは当日に配布を予定していた資料です。

# 令和3年度 文化芸術創造活動助成事業 報告

※申請書・報告書をもとに構成

## ①「アウトプット展 2021」／アウトプット展実行委員会

### 【事業の目的】

- ・青森県内特別支援学校の児童・生徒や、福祉事業所あるいは個人で制作している方々の表現を発掘調査し、紹介する。
- ・青森県内特別支援学校の授業や福祉事業所の活動・ワークショップの中で制作された同一テーマ・技法・素材の作品や共同制作作品を紹介する。
- ・障害やアートのボーダーを問い直し、人間の活動、表出や生きることそのものを表現ととらえる企画展示を行う。
- ・会期中に、実際に制作を体験したり、鑑賞者と楽しさを共有したりできるワークショップを実施する。
- ・会期中に、開催趣旨に基づくテーマで、講演会あるいはパネルディスカッション、アーティストトークを実施する。



【実施期間】 令和3年8月19日（木）～8月28日（土）※8/23は休館日

【実施会場】 青森県立美術館コミュニティギャラリー-ABC

【対象】 青森市民及び近隣の居住者

### 【実施内容】

#### <作品展示>

- ◇ 青森県内特別支援学校の共同制作作品や授業で取り組んだ作品、県内福祉事業所で取り組んでいる制作実践を紹介展示した。
- ◇ 青森県内で優れた創作を続けている方、ユニークな表現を続けている方の作品を紹介展示した。
- ◇ 企画展示を通して、障がいのある方の美術作品の捉え方について問題提起をした。
- ※岩手県、秋田県、埼玉県の事業所から作品を借用して展示
- ※青森県立盲学校と青森県立黒石高等学校の生徒の対話を作品として展示

<ワークショップ「思考の波をアウトプット」> 講師:石岡有佳子氏(ワークショップデザイナー)

8月21日(土)13:00～ 15:00、22日(日)10:00～ 12:00

◇ 展示作品を鑑賞し、作品に対するメッセージを書いて、メッセージツリーを飾るワークショップ。

<オンライン講演会「多様な人とともに表現を捉え直す試み」> 講師：田中みゆき氏(キュレーター、プロデューサー)

【助成内定額】 200,000 円 【助成決定額】 199,670 円

### 【事業効果】

- ・青森県内の新聞社2紙(東奥日報、陸奥新報)が展覧会について3回連載の紹介文を掲載してくれた他、新聞社3紙(東奥日報、陸奥新報、朝日新聞)が紹介記事を掲載してくれた。さらに青森放送のラジオ局が展覧会を中継する等、展覧会は多くの注目を集め、障害のある方の表現を一般の方たちに広く伝えることができた。
- ・企画展示室の作品制作において青森県立盲学校の生徒に青森県立黒石高校の生徒がインタビューすることで、特別支援学校と普通高校の生徒が交流をすることができた。また、展示作業の際に青森県立黒石高校及び青森県立青森東高校の生徒と青森市立三内中学校の生徒が2日間でのべ35人、ボランティアで参加するなど、中高生の障害理解の機会を作ることができた。
- ・作品鑑賞のワークショップを行った他、来場した方に、段ボールで作った本に感想を貼り付けていただいたことで、一般の方の作品理解を深めることができた。それとともに、作品制作をした方たちに感想を届けることができ、表現の意欲を高めることにつながった。講演会はコロナ対策のためオンラインでの実施となったが、参観された方に障害に対する新たな視点や、可能性について考える機会を提供することができた。

#### 《 あおもりアーツカウンスル委員による講評 》

「障害を抱える方々の表現の多様性は圧巻であった。また視覚障害を抱える生徒による作品「Dialog Tree」は視覚に訴える作品ではないものの、風に揺れる木々の枝葉が鳴らす音に耳を澄ましながら森を回廊するような感覚を覚え、従来の美術のイメージを超えた新しい表現へのチャレンジ性も窺えるものであった。」「展覧会でまとまった点数の作品を実見することができ、県内の障がいとアートに関わる実践の層の厚さを感じた。学校での授業やワークショップで制作された作品も、教員や活動に参加されている方、学生の創意工夫が溢れたものが多かった。」「作品の精密な部分に圧倒されるものもあり、驚くようなモノがあった。残念であったのは、関係者の写真撮影である。記録を残したい気持ちは理解できるが来場者への配慮に欠ける。」

## ②AIRS（エアーズ）／世界最大級版画プレス機活用の油性1版多色刷り木版画制作

### 【事業の目的】

AIRSは、ACAC開館をきっかけに発足し、そこを訪れる作家の制作サポートをはじめ、市内において自主企画による展覧会を開催するなど、ACACと市民を繋ぐことを目的に活動してきた。本事業では、市内にある世界最大級の版画プレス機の活用と、制作した作品を展示・公開することで、「版画のまち・あおもり」の取組に資する。

### 【実施期間】

版画ワークショップの説明と版木配付：11月13日（土）13:00-15:00

ワークショップ：11月20日（土）～21日（日）10:00-15:00

作品展示：11月26日（金）～28日（日）10:00-17:00

【実施会場】ワークショップ：ACAC／作品展示：ギャラリークレイドル

【対象】小学校高学年以上（15名予定）

### 【実施内容】

・公立大学法人青森公立大学国際芸術センター青森・創作棟内ワークショップスタジオ及び銅版画室において、青森市内で版画制作を行なっている作家3名を講師に、10名の参加者が同センター所有の世界最大級版画プレス機を活用した油性1版多色刷り木版画制作を行ない、その作品を市内ギャラリーで展示公開した。

（スケジュール）

- ・3月1日、facebookで参加者の募集開始
- ・8月13日、募集チラシを県美、ACAC、市民センター等に配置
- ・3月16日、県政記者クラブへ投込み
- ・9月1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため延期を決定  
変更前 9月11日(作り方の説明)、18日(彫り)、19日(刷り)  
変更後 11月13日(作り方の説明)、20日(彫り)、21日(刷り)
- ・11月20日、あおもりアートカウンスル委員視察
- ・11月25日、ギャラリーに作品搬入及び展示
- ・11月26～28日、作品の展示公開
- ・11月23日～12月7日、随時作品を返却

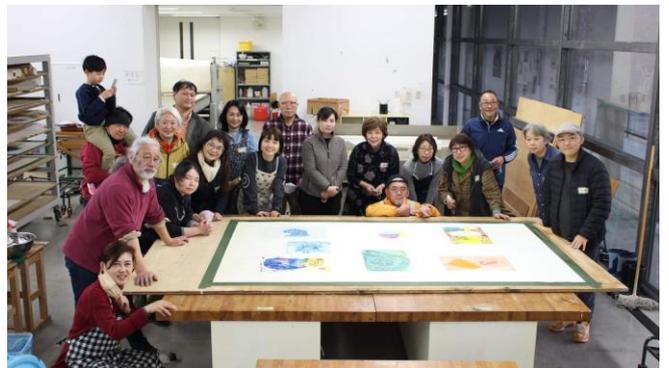
【助成内定額】200,000円 【助成決定額】200,000円

### 【事業効果】

- ・参加者のうち、青森市内に世界最大級の版画プレス機があることを初めて知ったという方が複数いた。
- ・版画は小学校以来という方も多く途中でやめると言った方もいたが、最後には全員から参加してよかったという声をいただいた。
- ・展示公開では3日間で関係者を含む約50名の方に来ていただいた。
- ・地元紙に取り上げられたこともあり、些少ではあるが当初の目的である「版画のまち・あおもり」に資することができたと感じている。

### 《 あおもりアートカウンスル委員による講評 》

「青森市で版画に興味を持ち、制作する方の多さに驚きがあった。My彫刻刀を持参し、一生懸命に版画を彫る姿に、この事業活動の意義があると感じた。また、世界最大級の印刷機について、機械操作の技術の承継や、活用しきれていない実情を知った。他県にない機械であり、市民の方にもっと知って頂き、色々な活用方法を模索する必要があると感じた。小学生など若年層が少なく、子どもたちにもアプローチできればと感じた。」



### ③ 洞爺丸よ、安らかに！～オンラインで追悼する青函連絡船洞爺丸

／一般社団法人進め青函連絡船

#### 【事業の目的】

- ①日本海難史上最大の大惨事「洞爺丸事故」から、67年目の2021年9月26日、「洞爺丸遭難追悼集」（洞爺丸遭難者遺族会発行）を元に構成した朗読劇をオンラインで発信する。収録は渡辺源四郎商店しんまち本店2階稽古場。
- ②洞爺丸を中心に、青函連絡船と郷土史を語り継ぐことをテーマにした鼎談を収録し、オンラインで発信する。鼎談メンバーは今村修（奏海庵主）、相馬信吉（奏海の会会長）、畑澤聖悟（渡辺源四郎商店店主／進め青函連絡船理事）。収録は青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸。
- ③冊子『進め！青函連絡船 vol.3 2021年号～洞爺丸特集号』を発行する。上記鼎談を収録するとともに、渡辺源四郎商店『洞爺丸ものがたり』をはじめとする洞爺丸に関するコンテンツで編集する。



#### 【実施期間】

令和3年9月26日（日）22:45より

【配信サイト】YouTubeチャンネル「渡辺源四郎商店」

【対象】青森市民、青森市に住む小中高校生・大学生、全国の演劇ファン  
青函連絡船ファン・鉄道ファン

#### 【実施内容】

- ①日本海難史上最大の大惨事「洞爺丸事故」から67年目の2021年9月26日、「洞爺丸遭難追悼集」（洞爺丸遭難者遺族会発行）を元に構成した朗読をオンラインで発信。収録は渡辺源四郎商店しんまち本店2階稽古場。「朗読劇」として演劇仕立てにする計画であったが、青森県新型コロナウイルス感染症緊急対策パッケージの発令に伴い、断念。朗読を一人ずつ収録し、編集で繋げる形態となった。
- ②洞爺丸を中心に、青函連絡船と郷土史を語り継ぐことをテーマにした鼎談を収録し、オンラインで発信。鼎談メンバーは今村修（奏海庵主）、相馬信吉（奏海の会会長）、畑澤聖悟（渡辺源四郎商店店主／進め青函連絡船理事）。青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸にて収録。
- ③冊子『進め！青函連絡船 Vol.3 2021年号～洞爺丸特集号』を発行した。上記鼎談を収録するとともに、渡辺源四郎商店『洞爺丸ものがたり』など洞爺丸に関するコンテンツで編集した。

【助成内定額】200,000円 【助成決定額】200,000円

#### 【事業効果】

- ①「洞爺丸追悼集」朗読はYouTubeにて配信され、10月28日（木）現在、92の視聴と7の高評価を得た。今後も増えることが期待できる。ツイートも多く、洞爺丸の認知度UPに貢献した。
- ②「鼎談」はYouTubeにて配信され、10月28日（木）現在、76の視聴と4の高評価を得た。今後も増えることが期待できる。
- ③冊子『進め！青函連絡船 Vol.3 2021年号～洞爺丸特集号』は、青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸、成田本店新町店、三ノ月舎、渡辺源四郎商店NET通販支店で販売し、コロナでイベントが実施できない中、青函連絡船を愛する者を繋ぐアイテムとして評判を呼んでいる。

#### 《あおりアーツカウンスル委員による講評》

「法人として明確な目的を持ち、オンラインという新たなアプローチにより継続的に発信している姿勢は、大変評価できる。また、オンラインに留まらず、出版物を制作したことも、形として残す意味で大変価値のある事業だった。朗読劇からの計画変更については、大変苦労したことを思う。」

#### ④「地元アーティストによる無観客ライブ配信」／青森 GOTTAMIX

【事業の目的】 ※実施前、申請書記述より抜粋（開催日時は変更後のものです）

地元アーティストによるライブを YouTube で無料公開することで、青森市民および幅広い層に向けて地元の音楽文化を発信する。また、コロナ禍においても持続可能な表現の場となることを目的とする。

##### 【実施期間】

令和 3 年 12 月 26 日（日）17:00～22:00

【配信サイト】 YouTube チャンネル「GOTTAMIX aomori」

【対象】 青森市民および視聴者



##### 【実施内容】 ※実施後、報告書記述より抜粋

『GOTTAMIX Year End Party 2021 ONLINE』の企画名のもと、青森県内で活動するアーティストによる無観客ライブを YouTube で配信し、無料で公開した。

アーティストは全 7 組で合計 5 枠、1 枠を 40 分とし、17 時から 22 時までライブを実施した。新型コロナウイルス感染症対策として、スタッフ及び出演者の検温や消毒、マスク着用、転換中の会場内の換気などを徹底した。



【助成内定額】 200,000 円      【助成決定額】 200,000 円

##### 【事業効果】

- ・機材トラブルにより配信が一度途切れたため二部構成となったが、リアルタイムとアーカイブでの視聴回数は合計で約 1700 回を超えており、青森市民だけではなく県内外の不特定多数の人に向けて地元の音楽文化の発信が出来た。アーカイブは今後も公開する予定である。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けライブの機会が少なくなった地元アーティストとライブハウスの支援をすることが出来た。
- ・視聴者がコメントを投稿できる YouTube のチャット欄や、複数台のカメラやスイッチャーを活用することで、配信特有のライブの楽しみ方を提供した。

##### 《 あおもりアーツカウンシル委員による講評 》

「地元アーティストによるユーチューブでのライブ配信について、それ自体は既に社会的に浸透してきているものの、コロナ禍での新たな手法の一つとして効果があるものと認められる。また、ライブ配信の告知動画もユーチューブに掲載するとともに、本番当日は実施計画に基づき、コロナ対策等もしっかりと行ったようであり、実施に当たって真摯に取り組んでいる様子が窺え、好感が持てた。リアルタイムでの視聴者数は 30～60 人程度と多くはなかったが、今後更に活動の幅が広がることを期待する。」

# 令和3年度 “創造の場づくり、支援事業” 報告

【目的】感染症流行下において、現場での創作活動は個別化していかざるを得ない現況であり、活動者の魅力や思いをオンラインで発信することで、“創造の場”を継続する機会をつくとともに、様々なジャンルの活動者同士のゆるやかな地域ネットワーク形成する。あおもりアーツカウンシル YouTubeCH にて公開中。



## 【第1回】青森に新たなギャラリー誕生「ギャラリークレイドル」(美術)

令和3年4月。青森市桜川に新たなギャラリーが誕生。オープニング自主企画「&クレイドル」として、青森版画シーンで躍動する年代も性別も異なる独創的な作家3名が個展を開催した。



【出演】高樋忍 (ギャラリークレイドル主宰) / 版画家：竹林嘉子・奥山庸子・橋本尚恣  
進行：佐藤広野 (あおもりアーツカウンシル会長)



## 【第2回】北東にほとばしる詩と音楽と「北東アーティストアーカイブ」(文芸・音楽)

3人の地元アーティストが立ち上げた「北東アーティストアーカイブ ch」は、主に県内アーティストの演奏や朗読を見られる動画配信チャンネル。コロナ禍で生まれる表現をも記録し続ける。



【出演】コスモスチバ・アキ・サミー (北東アーティストアーカイブ)  
車椅子の詩人：中村一生 / 進行：張間陽子 (ラジオパーソナリティ)



## 【第3回】どこまでが作品？想いと思いの冒険「アウトプット2021」(美術)

令和3年8月。障害がある方の作品から、生の多様性について考える展覧会「アウトプット展2021」が開催された。展覧会を始めたきっかけや感じていること、展示アーティストの作品を紹介。



【出演】蒔苗正樹 (アウトプット展実行委員) / アーティスト：今恵美子・相坂歩希・平野友愛  
進行：慶野結香 (あおもりアーツカウンシル委員)



## 【第4回】記憶を遺す、記録に残す「(一社)進め青函連絡船」(演劇・歴史)

日本海難史上最大の大惨事と言われた「洞爺丸事故」から67年。(一社)進め青函連絡船は、物流都市として栄えてきた青森市の歴史を後世に伝えるべく、朗読のオンライン配信を行った。



【出演】畑澤聖悟 ((一社)進め青函連絡船) / 女優：木村知子・山上由美子  
葛西鎌司 (八甲田丸 最後の機関長、現・メモリアルシップ八甲田丸ボランティアガイド)  
進行：高谷憲 (あおもりアーツカウンシル副会長)



## 【第5回】ライブハウス発！年末ステージ配信「青森 GOTTAMIX」(パフォーマンス)

師走、青森 Quarter より、無観客によるオンライン配信が行われた。コロナ流行の影響を真正面から受けたステージ業界。イベント主催者、出演者、ライブハウス関係者の思いを聞いた。



【出演】菊池祐一ほか (青森 GOTTAMIX) / 紫月・める子 (SNOWDOME PRODUCTION)  
風〜ふう〜&MORIYUKI / 坂本将幸 (青森 Quarter)  
進行：エイイチロウ (あおもりアーツカウンシル委員)

# 令和3年度 A-Paradise 事業 報告

「A-Paradise」は、毎年、市ベイエリアから商店街にかけての一带で開催しているアートや音楽等のイベントおよび実施団体名。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、動画コンテンツ企画「おうちで A-Paradise2021」の制作・配信や、街中で絵本とステージを楽しむイベント企画「春待つ A-Paradise」を開催。

## ①キックオフ企画「A-Paradise オンライン情報交換会」

【目的】 コロナ禍の活動について情報交換をするともに、学生や活動者とのネットワーク作りを目指す。

【実施報告】 大学生2名、市内活動者2名が参加。コロナ禍で、ふだんどおりに活動できない状況を共有し合った。この時のつながりから、後に企画された「おうちで A-Paradise2021」では、参加者の大学サークル活動を取材し、子ども団体との連携ワークショップを行った。また、絵本活動家との連携イベント「春待つ A-Paradise」を行うきっかけとした。

## ②「おうちで A-Paradise2021～芽生えの頃、なれる自分へ」

【目的】 青森で活動をする大学サークルや高校生団体、地域と人をつなぐ文化芸術活動者などを取材し、短編ドキュメンタリー映像を制作することで、コロナ禍で小規模でも活動を続けるための取り組みや思いを、市民・視聴者に伝える。また、ねぶたの技法を使ったオブジェを考案し、制作キットを販売して家庭で作り、蒔いた種が「アフターコロナ」に芽吹くイメージを共有する。



### 【実施報告】

#### 企画 A : 「ART IN MY TOWN」: 短編ドキュメンタリー制作

- ・8 月: 「子ども写真ワークショップ/あおもり子ども劇場×A-Paradise」を開催・撮影した。  
→ 短編ドキュメンタリーとして、A-Paradise YouTube チャンネルにて、3月より公開。
- ・8月～10月: 「大学生や地域の活動者へのインタビュー/大学生×A-Paradise」を撮影。  
→ 短編ドキュメンタリーとして、A-Paradise YouTube チャンネルにて、3月より公開。
- ・12 月: 「オンライン配信イベント/確原色(高校生団体)×A-Paradise」をブラックボックスで開催・撮影した。  
→ A-Paradise および確原色の SNS アカウントでライブ配信を行った。(一部、YouTube チャンネルにてアーカイブ公開中)



#### 企画 B : 「おうちでつくろう」: ふたばねぶた制作キット考案・販売



- ・ねぶたの技法を用いたアート作品「ふたばねぶた」を A-Paradise メンバーが考案→制作キットを作成。
- ・ホームページにて、作り方説明書および A-Paradise メンバーによるミニストーリーを公開した。
- ・「春待つ A-Paradise」において、1個 300 円で約 30 個を販売した。



### ③「春待つ A-Paradise～絵本がつなぐ しんまちキャンプステージ～」

○開催日時 令和4年3月5日(土) 12:00～17:00/6日(日) 10:00～17:00

○会場：新町キューブグランパレ ○入場観覧無料 ○来場者数：115名



#### 【目的】

キャンプサイトをイメージした会場で、絵本に触れることのできるコーナーや、公募者らによるステージ発表を行う。また、広く市民に参加してもらいながらも、新型コロナウイルス感染症に対するさまざまな対策を行い、コロナ禍における実験的な開催形態とする。

#### 【実施報告】

##### 企画A：「出張 絵本読み語り」：絵本コーナー・企画展示・絵本ステージ発表

- ・年度初めの「A-Paradise 情報交換会」でつながった「絵本カフェまりあんじゅ～」と連携した。
- ・会場にはお借りした160冊の絵本を設置し、来場者が自由に閲覧できるようにした。
- ・企画「絵本と音楽」では、出演者や市民ら10組が「一冊の絵本+それに合う音楽、の紹介展示をした。
- ・絵本カフェ主宰者らにより、絵本の読み語り+アコースティックギター演奏を行った。



##### 企画B：「春待つキャンプステージ」：公募者らによるステージ発表

- ・SNSを通し「1組30分、ジャンル問わず」として、出演者を公募し、9組が公募エントリー。
- ・その他、メンバーからの依頼も含め13組が出演。音楽、演劇、朗読、ダンス等、さまざまなステージを行った。
- ・ステージ発表の開幕・閉幕時は「A-Paradiseのテーマ」を演奏・演舞し、会場内を盛り上げた。



##### 【新型コロナウイルス流行下での実験的な開催形態について】

- ・コロナ禍で行う初めての有観客イベントだったため、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して実施した。
- ・対策としては、基本事項（検温・手指消毒・距離を保った観覧・飲食不可など）に加え、「出演者交代時のマイク・座席・絵本などの消毒」「ステージから客席までの距離の確保（5m）」「出演者の感染不安によるキャンセルを受付」等を行った。
- ・市内の感染状況により観客を入れられなくなる可能性が考えられたため、無観客開催の場合として、ライブ配信・収録配信企画「春待つキャンプステージ撮影会」を用意していた。
- ・近隣飲食店のメニュー等を紹介するコーナーを設置し、会場周辺のにぎわいづくりに貢献した。

